

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】インターンシップ等の取組拡大」  
「大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)」

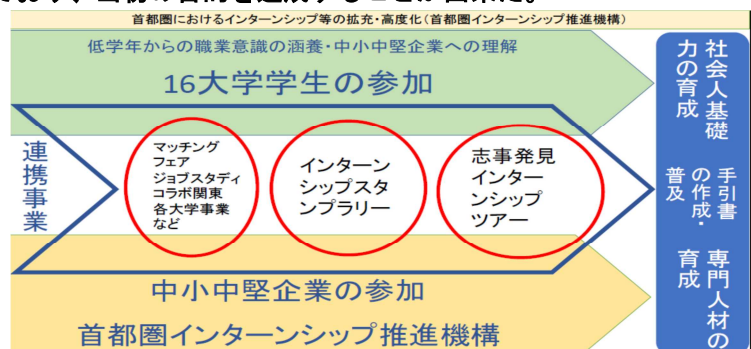
最終評価結果

大学グループ名	青山学院大学グループ
取組名称	首都圏におけるインターンシップ等の拡充・高度化
地域インターンシップ推進組織名	首都圏インターンシップ推進機構
取組担当者	青山学院大学 副学長 青山スタンダード教育機構長 文学部教授 篠原 進
連携校名(★幹事校)	★青山学院大学、大妻女子大学、工学院大学、駒澤大学、芝浦工業大学、昭和女子大学、専修大学、拓殖大学、東京家政大学、東京電機大学、東京都市大学、東京未来大学、法政大学、明治学院大学、目白大学、東京家政大学短期大学(計16校)
連携したインターンシップ等支援組織等名(団体名・企業名等)	経済産業省関東経済産業局、東京商工会議所、東京経営者協会、特定非営利活動法人国際社会貢献センター(ABIC)、ファッション産業人材育成機構、首都圏産業活性化協会(TAMA協会)、東京東信用金庫、株式会社日経HR、株式会社ダイヤモンド社

事業概要

首都圏インターンシップ推進機構は、中堅中小企業を主たる対象として、とくに低学年学生の職業意識を涵養するという2つの視点にもとづき、①「インターンシップスタンプラリー」、②「志事発見インターンシップツアー」という新しいインターンシップを開発、運営するとともに、インターンシップマッチングフェア、ジョブスタディコラボ関東を開催するなどの連携事業を展開した。①は、参加学生が受入れ企業15社の中から任意の3社(うち、少なくとも1社は中堅中小企業)を選択し、3回のワンデイ・インターンシップに参加するものである。このインターンシップを通じて、参加学生は異なる業種への関心をもち、大企業だけでなく中堅中小企業にも視野を広げることができた。②は、経営者から仕事にかける思い・熱意を語っていただき、これを聞く事によって参加学生の職業意識の涵養を目指すものである。江戸っ子1号、環境を守る、お客様の笑顔に触れる、人を育てる、という4つのテーマを設定し、学生は1つのテーマを選び、そのテーマについて3社のワンデイ・インターンシップに参加した。これらインターンシップは、参加学生の仕事への気づきを喚起するとともに、中堅中小企業にとっても受け入れやすいプログラムとなっており、当初の目的を達成することが出来た。

また、これら事業の経験をもとに、「学生向けインターンシップ参加の手引き」および「専門人材向けインターンシップ参加の手引き」を作成し、インターンシップを開発、運営するノウハウを「見える化」することができた。さらに、16大学、連携組織の構成員がインターンシップの事業運営に携わり、インターンシップを実地に経験したことは、インターンシップ専門人材の育成につながった。



最終評価結果<総合評価> B

<<コメント>>

首都圏16大学での構成及び対象地域については予定通り推進組織を構築した。新たに開発した「インターンシップスタンプラリー」、「志事」発見インターンシップツアーは、中小企業や低学年の学生を対象とした取組であり、学生、企業それぞれにとって難しい課題であるインターンシップへの早期の動機付けへ挑んだことは評価したい。

一方で、それぞれの取組内容については評価できるものの、具体的な成果や効果が見えにくい。16大学という連携校数からは参加学生数や事業の頻度も多いとは言えない。幹事校、副幹事校以外の大学の積極的な活動の実態が見えない等、大学連携への努力は不足しており、結果として今後の連携体制の維持については具体的な方向性が見えない。また、専門人材の育成に関しては、具体的な取組が見えず、不十分であった。

今後は、企業が多く、3年生向けのインターンシップが盛んに実施されている首都圏の優位性を最大限に生かし、本事業で実施した低学年の学生を対象としたインターンシップの課題に向き合いながら、各大学において、主体的で特徴のある活動が継続されることを期待したい。